

県土の発展と県民の安全・安心に資する 道路整備の推進



- 災害脆弱性とインフラ老朽化を克服し、強靱で信頼性の高い道路ネットワーク構築を目指す。

【提案・要望先】財務省、国土交通省

1. 提案・要望内容

(1) 県土の発展を支える道路整備の推進

- 防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策による国土強靱化の推進
- 5か年対策プログラムで令和7年秋開通予定とされた直轄事業の早期供用
- 名神名阪連絡道路の調査への財政支援および計画の具体化に向けた一層の連携
- 「滋賀・京都間の新しい国道1号バイパス」の計画段階評価の早期着手
- 国道8号彦根・東近江間バイパスの早期事業化
- 国道365号栃ノ木峠道路の直轄権限代行に向けた直轄調査の実施および早期事業化
- 地方整備局等の体制の充実・強化

(2) 安全・安心や賑わいを創出する道路整備の推進

- 大雪時の円滑な交通確保に向けた情報発信
- 道路インフラ施設の予防保全を基本とした維持管理への転換
- 「いのち」を守る道路環境の形成
- ナショナルサイクルルート「ビワイチ」の推進のため世界への発信機会の創出

2. 提案・要望の理由

(1) 県土の発展を支える道路整備の推進

- 防災・減災、国土強靱化5か年加速化対策については、残る期間における確実な予算の措置、さらに5か年加速化対策後においても必要な予算・財源の継続的・安定的な措置が必要。
- 激甚化・頻発化する災害に備えるとともに、人流・物流の円滑な移動を確保するため、令和7年秋開通予定箇所の日も早い供用が必要。
- 名神名阪連絡道路は、約30kmの高規格道路であり、重要物流道路の計画区間に指定されている。高速道路等の迂回や物流の定時性・安定性の確保のため、調査への財政支援およびルート帯の決定など計画の具体化に向け本県・三重県と一層の連携が必要。
- 「滋賀・京都間の新しい国道1号バイパス」は、国道1号栗東水口道路等の供用後を見据え、調査やバイパス計画の策定を推進し、計画段階評価の早期着手が必要。
- 国道8号彦根・東近江間は、渋滞箇所や事故危険区間が存在しており、安定的な物流の確保や地域住民の安全確保のため、バイパスの早期事業化が必要。
- 国道365号栃ノ木峠道路は、脆弱な地質でのトンネル工事が想定され、国の技術力が不可欠なため、直轄権限代行に向けた直轄調査の実施および早期事業化が必要。
- 激甚化・頻発化する自然災害に即応するため、TEC-FORCE等を含む地方整備局等の体制の充実・強化および災害対応に必要な資機材の更なる確保が必要。

(2) 安全・安心や賑わいを創出する道路整備の推進

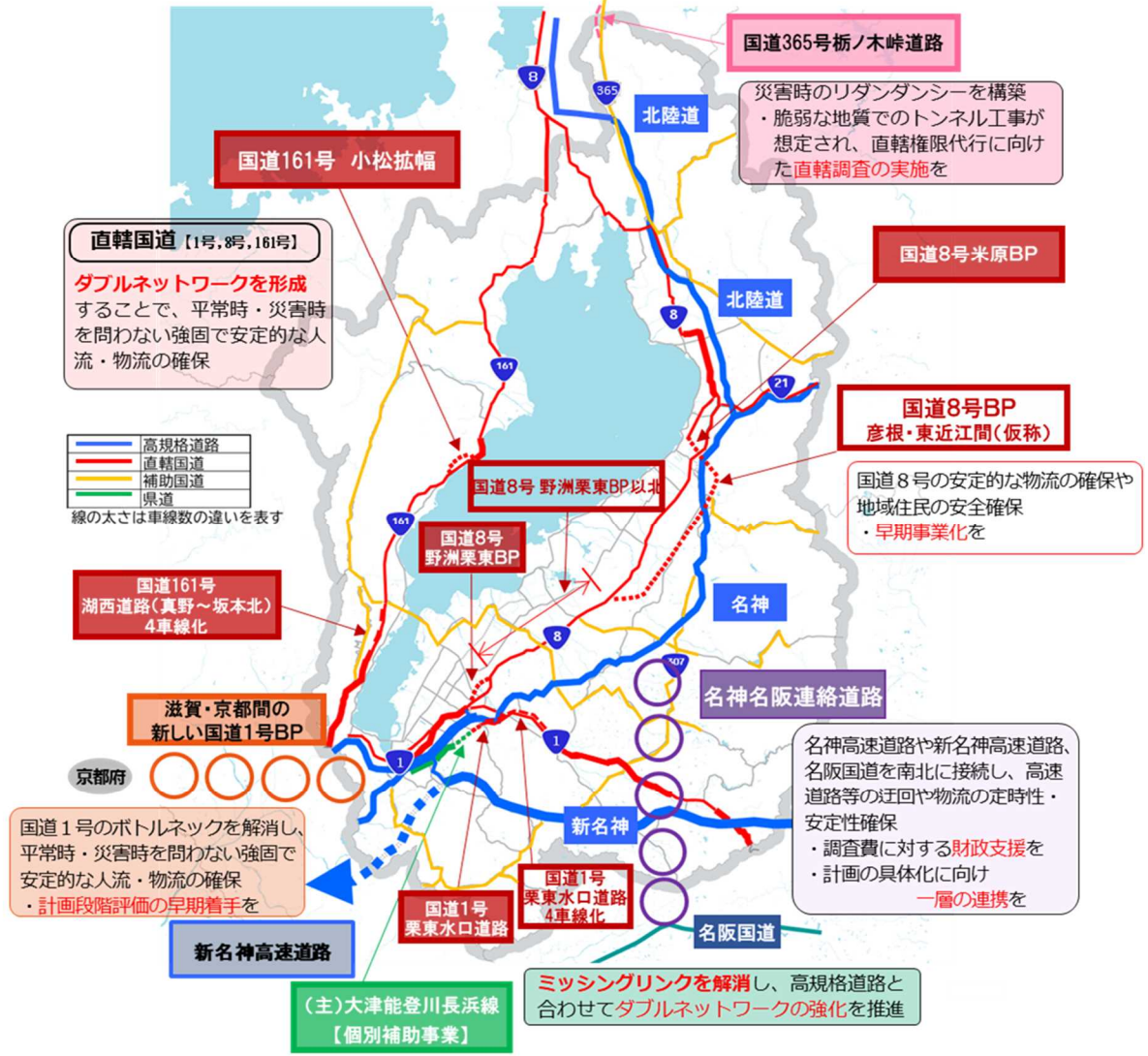
- 大雪時の円滑な交通確保に向けて、道路情報提供システムの改修や維持にかかる財政支援と、出控えなど国民の行動変容に向けた取組が必要。
- 道路インフラ施設の老朽化対策を加速化するため、道路メンテナンス事業補助による重点的かつ集中的な財政支援が必要。
- 交通安全対策補助は、令和3年度に実施した通学路合同点検で抽出された要対策箇所のみが対象となるため、対象範囲の拡大が必要。
- 世界に誇るナショナルサイクルルート「ビワイチ」の更なる地域ブランド化と国主導による情報発信の機会の創出が必要。

(本県の取組状況と課題)

(1) 県土の発展を支える道路整備の推進

- 「防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム(令和3年4月公表)」で、**直轄事業の開通見通し**と国道1号(滋賀・京都間)の**計画段階評価に向けた調査の推進**が示された
- 県では「新広域道路交通ビジョン」などを踏まえ、道路整備の個別計画である「**滋賀県道路整備アクションプログラム2023**」を策定した
- 「**名神名阪連絡道路**」はルート帯の決定など、**計画の具体化に向け**検討を進めている
- 国道8号彦根・東近江間**は、県で都市計画および環境アセスメント等の手続きを進めている

【5か年加速化対策を活用した幹線道路ネットワーク整備】



道路整備により物流が効率化し、「モノづくり県滋賀」のポテンシャルを更に発揮することが可能!

企業活動を行う上で最適な立地環境



地の利を活かし、全国有数の内陸工業県として発展し、若く活気あふれる県

● 県内総生産に占める**第2次産業の割合は全国第1位!**

● 1事業所あたりの**付加価値額は全国第2位**

● 15歳未満の**年少人口割合全国第2位**

しかしながら国道・県道の**整備率は低い**

- 国道・県道計 **52.9%** (全国 **35**位)
- 直轄国道 **37.4%** (全国 **41**位)

(本県の取組状況と課題)

(2) 安全・安心や賑わいを創出する道路整備の推進

○ 大雪時の円滑な交通確保に向けた情報発信

- 令和5年1月には、**例年降雪の少ない滋賀県南部地方で大雪**となったことから、県境付近の急な勾配の道路等で**ノーマルタイヤ車両等がスタック**し、長時間の通行止めが発生した。
- 大雪時は非常時であることを国民が理解し、積雪地への車両流入抑制や冬用タイヤの装着徹底等、国民の行動変容に向けた取組が必要**
- 積雪地への流入抑制を促すためには、**監視カメラ映像のリアルタイム配信**などにより、積雪状況を容易に把握できることが重要。監視カメラ等**システム改造費や維持管理費**について、**国の財政支援が必要**



○ 道路インフラ施設の予防保全を基本とした維持管理への転換

- 適切な維持管理を行うため、**事後保全から予防保全への移行を早期に実施**し、修繕に必要な費用が集中しないよう計画的な維持管理を行うことが必要

橋梁修繕状況 (H26~R4) 【県管理橋梁：3,064 橋】

	Ⅲ判定	Ⅳ判定	計	措置完了	措置未完了
1巡目点検 (H26~H30)	191	1	192	167	25
2巡目点検 (R1~R4)	49	0	49	21	28
計	240	1	241	188	53

【9年間の実績】

- ①平均措置数 : 約 21 橋/年
- ②Ⅲ判定確認数 : 約 12 橋/年
- Ⅲ判定減少数: 約 9 橋/年

判定区分Ⅲ・Ⅳの施設への老朽化対策を早期に完了し、**予防保全へ移行を加速化**するためには、**重点的かつ集中的な財政支援が継続して必要**



修繕 (塗装塗替) 状況
【米原跨線橋】

(本県の取組状況と課題)

○ 「いのち」を守る道路環境の形成

- 交通安全対策補助の対象範囲を今後の通学路合同点検（未就学児の移動経路および中学校の通学路も含め）で抽出される箇所も含むよう、**制度拡充**が必要
- 車の速度抑制対策が推進できるよう**地区内連携事業**に対する財政支援が引き続き必要

安全対策の制度拡充



継続的な通学路点検で、**新たな要対策箇所を抽出**



スムーズ横断歩道（小学校裏）



バンプ（小学校裏）



速度規制（ゾーン 30）



登下校時の見守り活動

ガードパイプ設置

○ ナショナルサイクルルート「ビワイチ」の推進のため世界への発信機会の創出

- 「ビワイチ」低速コースの整備が令和4年度完了
- 今後も、「ビワイチ」ブランドの向上と、自転車専用通行帯としての規制に向け、**自転車通行帯を連続的に整備**するための財政支援が必要
- 全世界に向けて日本の自転車ツーリズムの魅力を発信できるよう、**ALL JAPANの情報発信**が必要

自転車通行帯の整備支援

【県管理道路】

- 低速コース 99km 整備完了
- 上級コース **整備予定：16km**（～R8 年度目標）



上級コースの整備状況
スポーツサイクリング等



低速コースの整備状況
家族連れでゆっくりサイクリング

情報発信の支援



NCR 関係地公体知事のオンラインミーティング



NCR 担当会議



世界旅行博（ウィーン）出展



出典：オーストリア大使館 HP